

《担当者名》野田 昌道

【概要】

家族を巡る問題は、DV、離婚、再婚、虐待、高齢者介護など、複雑化、深刻化している。こうした現代家族が直面する課題の解決や危機の克服のために、家族心理学が担う役割は大きい。本授業では、主に家族全体を一つのシステムとしてとらえる視点（家族システム論）から、家族にかかわるさまざまな心理学的諸現象について理解し、家族に対する支援について検討する。

【学修目標】

家族にかかわる心理学的諸現象や家族心理過程についてさまざまな理論を用いて説明できる。

家族が個人に及ぼす影響について概説できる。

家族に対する支援法の理論と実際について概説できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-----------------|--|-------|
| 1 | 家族とは何か | 家族の定義，機能について理解する。 | 野田 昌道 |
| 2 | 家族を理解するための基本的概念 | 家族理解に有益な家族療法の鍵概念について学ぶ。 ・ I P ・ サブシステム ・ 境界と連合 ・ 自己分化 ・ 三角関係化 | 野田 昌道 |
| 3 | 家族のアセスメント（1） | 家族機能を評価するための尺度やアセスメントツールについて概観する。 | 野田 昌道 |
| 4 | 家族のアセスメント（2） | ジェノグラムについて理解し，自分で作成できるようになる。 | 野田 昌道 |
| 5 | 家族の発達（1） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 新たな家族づくりの準備（親密な人間関係，配偶者選択） | 野田 昌道 |
| 6 | 家族の発達（2） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 結婚による新たな家族の形成（原家族との離別） | 野田 昌道 |
| 7 | 家族の発達（3） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 夫婦関係の構築（夫婦のアイデンティティ，カップルのダンス） | 野田 昌道 |
| 8 | 家族の発達（4） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 子どもの誕生（アタッチメントの形成，親役割の取得） | 野田 昌道 |
| | 家族の発達（5） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 児童期の子どもがいる家族（子どもを含んだシステムとの新たな関係づくり） | |
| 9 | 家族の発達（6） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 思春期青年期の子どもがいる家族/子どもの巣立ち（子どもの自立，夫婦システムの再編成） | 野田 昌道 |
| 10 | 家族の発達（7） | 家族ライフサイクルのステージごとに，家族の発達課題について理解する。 ・ 老年期の家族（多世代との関係再編，高齢者介護） | 野田 昌道 |
| 11 | 家族への臨床的アプローチ（1） | 家族療法の理論と歴史について学ぶ。 | 野田 昌道 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-----|-----------------|----------------------------------|-------|
| 1 2 | 家族への臨床的アプローチ（2） | 家族支援に役立つ家族療法の技法について学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 3 | 家族への臨床的アプローチ（3） | 夫婦関係の支援，カップルセラピーについて学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 4 | 家族への臨床的アプローチ（4） | ステップファミリーについて学ぶ。 | 野田 昌道 |
| 1 5 | 振り返り | 現代あるいはこれからの家族の課題や支援の在り方について検討する。 | 野田 昌道 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験

【備考】

ICTを活用した授業行う。

- 1 . Google Classroomを利用して、適宜授業資料を配信する。
- 2 . Google Formを利用して、授業後に理解度確認のための課題を提示する。

【学修の準備】

家族や家族員について身近な体験をもとに、直面する危機や解決法について具体的に考えてほしい。これらの予習・復習にそれぞれ60分あてることを想定している。自分の家族について、あるいは家族の中で育った自分自身について振り返り、考える機会も多くなるが、それに伴い、ストレスを体験する可能性もある。適切な自己管理が必要となる。

【ディプロマポリシーとの関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

家庭裁判所調査官，公認心理師，臨床心理士

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験をもとに、家族の問題や支援の実際などを具体的に提示し、実践的な検討の機会を提供する。